Qriom

コンパクトCDラジカセ

CBX-C993

保証書 持込修理

型　名	CBX-C993	
無料修理保証期間	本　体	お買い上げ年月日　　年　月　日より1年間
お客様	ご芳名 ご住所	様　☎ 〒
販売店	店名 住所	☎ ㊞

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束したものです。
上記「無料修理保証期間」中に故障が発生した場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

●所定記入欄が空欄のままですと、本書は有効とはなりません。記入のない場合は直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。
●本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

〈無料修理規定〉

1.取扱説明書、本体添付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合は、無料修理いたします。なお修理に代えて製品本体交換又は代替品交換とさせて頂く場合がありますので、ご了承ください。

なお、調査報告書の提出依頼等、製品の修理・交換以上の責はご容赦ください。

2.ご転居、贈答品等で修理依頼ができない場合には、キュリオムサポートセンターへご相談ください。【キュリオムサポートセンター: 0570-00-9106 受付時間：月～金午前10時～午後5時30分(土・日・祝祭日・年末年始を除く)※ナビダイヤルは一部の電話ではご利用になれない場合があります。】

3.保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。

(イ)使用上の誤りや不当な修理、改造による故障及び損傷。

(ロ)お買上げ後の転倒、輸送、落下等による故障及び損傷。

(ハ)火災、地震、風水害、ガス害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧その他の外部要因による故障及び損傷。

(ニ)一般家庭以外(業務用、車両・船舶への搭載)に使用された場合の損傷。

(ホ)本書のご提示がない場合。

(ヘ)本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。

4.本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買上げの販売店にお問い合わせください。

※本保証書に記載された個人情報は本機の保証・サービスを目的としており、それ以外の目的で使用することはありません。

株式会社 山善
家庭機器事業部

関東営業部　〒110-0015　東京都台東区東上野2丁目1番11号サンフィールドビル5階
大阪営業部　〒550-8660　大阪市西区立売堀3丁目2番5号
名古屋営業部　〒456-8588　名古屋市熱田区白鳥2丁目10番10号
九州営業部　〒812-8578　福岡市博多区博多駅南2丁目9番11号
東北営業部　〒984-8686　仙台市若林区卸町3丁目7番7号

Qriom

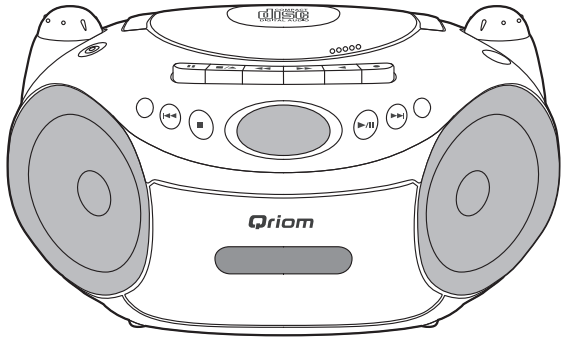
コンパクトCDラジカセ

CBX-C993

ご使用になる前に

この取扱説明書（保証書付）を最後まで
お読みのうえ正しくお使いください。

保証書付



この度は、本製品をお買上げ頂き誠にありがとうございました。
この取扱説明書（保証書付）は、大切に保管してください。
お読みになった後は大切に保管し、わからないことや不具合が生じた時にお役立てください。

日本国内専用 FOR USE IN JAPAN ONLY
本製品は家庭用として作られており、業務用には使用出来ません。室内での使用に限ります。

商品に関するお問い合わせ

キュリオムサポートセンター

ナビダイヤル **0570-00-9106**

受付時間

月～金　午前10時～午後5時30分
（土・日・祝祭日・年末年始を除く）
※ナビダイヤルは一部の電話ではご利用になれない場合がございます。

メールでのお問い合わせ

E-mail：support@qriom.com
ホームページ：http://www.qriom.com

1204

目　次

■安全にご使用いただく為に …… 2～5
■各部の名称 …… 6
■本体付属品リスト …… 7
■電源について …… 7
■CDを聴く …… 8・9・10
■ラジオを聴く …… 11
■カセットテープを聴く …… 12・13
■マイクを使う …… 14
■ヘッドホンで聴くときは …… 15
■お手入れ方法 …… 15
■仕　様 …… 16
■故障かな?と思ったら …… 16
■保証とアフターサービス …… 17
■保証書 …… 20

安全にご使用いただく為に

商品および取扱説明書にはお使いになるかたや他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明

⚠警告 「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷*1を負うことが想定されること」を示します。

⚠注意 「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害*2を負うことが想定されるか、または物的損害*3の発生が想定されること」を示します。

*1: 重傷とは、失明や、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
*2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
*3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

禁止

⃠は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

指示

●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

注意

△は、注意を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠警告

プラグを抜く

発煙や変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

プラグを抜く

電源コードが傷んだり、電源プラグが発熱したときは、電源プラグが冷えたのを確認しコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

確実に差し込む

電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

交流100ボルト以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
差し込みが悪いと、発熱し火災の原因となります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

分解禁止

分解・修理・改造はしない

感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

禁止

雷が鳴り出したら、アンテナ・電源コードに触れない
野外で使用していて、雷が鳴り出したら、アンテナをたたんで安全な場所に避難する

感電の原因となります。

⚠警告

プラグを抜く

落としたり、強い衝撃を与えてキャビネットを破損したときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

つぎのことを守る

電源コードを取り扱うときは、つぎのことを守る

- 傷つけない
- 延長するなど加工しない
- 加熱しない・引っ張らない
- 重い物を載せない・はさんだりしない
- 無理に曲げない・ねじらない
- 束ねたりしない

守らないと、火災・感電の原因となります。

入れない

機器の上に物を置いたり、異物を入れたりしない

金属類（クリップや針、コインなど）や紙などの燃えやすい物が内部に入った場合、感電・火災の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

雨天時の屋外や浴室など、水がかかったり、湿気の多い場所に置いたり使用したりしない

火災・感電の原因となります。
降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

プラグを抜く

内部に水や異物等が入ったらすぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

ほこりをとる

電源プラグの刃や刃の取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、電源プラグを抜きゴミやほこりをとる

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

禁止

次のような場所には置かない

- 風呂場など、水がかかったり、湿気の多い場所
- 雨、きりなどが直接入り込むような場所
- 火のそば、暖房機器のそばなどの高温の場所
- 直射日光の当たる場所
- 炎天下の車内
- ほこり、油煙の多い（調理場など）場所
- 振動の強い場所
- 腐食性ガス（亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアなど）の発生する場所
- 極端な高温、低温、温度変化の激しい場所
- ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所

火災・感電の原因となります。

安全にご使用いただく為に (つづき)

⚠注意

ディスクやカセット挿入口に手を入れない
禁 止
けがの原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

ひびわれ、変形、接着剤で補修したディスクを使用しない
禁 止
高速回転によりディスクが飛び出し、けがの原因となります。

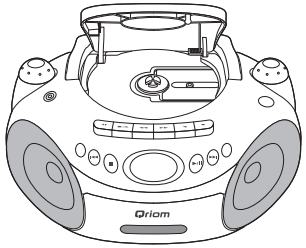
機器の上に乗らない
禁 止
倒れたり、こわれたりしてけがの原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

ディスクが回転中は手を触れない
禁 止
回転中にディスクに触れるとけがの原因になります。

音量に注意
つぎのことを守る
・始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷つけることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。
・電源を切るときは音量を小さくしておいてください。電源を入れたとき、突然大きな音がでて聴覚障害などの原因となることがあります。

円形ディスク以外は使用しない
禁 止
円形以外の特殊な形状（ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、高速回転によりディスクが飛び出し、けがの原因となります。

ディスクのピックアップレンズをのぞき込まない
禁 止
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。



ヘッドホン、イヤホンの音量を上げすぎない
禁 止
耳を刺激するような大きい音量で長時間聞き続けると、聴力障害の原因となります。

長時間音が歪んだ状態で使わない
禁 止
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

⚠注意

長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜く
プラグを抜く
万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

持ち運ぶときは、アンテナをたたみ、電源プラグをコンセントから抜く
プラグを抜く
けがやコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

通風孔をふさがない
禁 止
・壁に押しつけない（背面10cm、左右側面5cm以上の間隔をあける）
・押入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まない
・テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしない
・じゅうたんや布団の上に置かない
・あお向け・横倒し・逆さまにしない
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になります。

電源プラグをコンセントから引き抜くときは、電源プラグを持って引き抜く
プラグを抜く
コードを持って引き抜くとコードが破損し、火災・感電の原因となります。

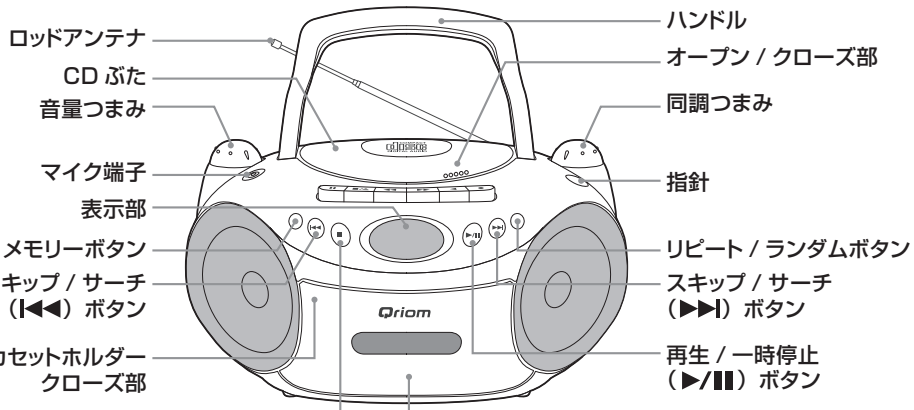
乾電池を取り扱うときは、つぎのことを守る
つぎのことを守る
・指定以外の電池は使用しない
・極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
・充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない
・乾電池に表示されている「使用推奨期限」を過ぎたり、使い切った乾電池は入れておかない
・種類の違う乾電池、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない
・本体から電源コードを抜いた状態で、乾電池を入れたまま長時間放置しない
・長時間使用したときは、本体から乾電池を取り出す
・水にぬらしたり、ぬれた手を触れない

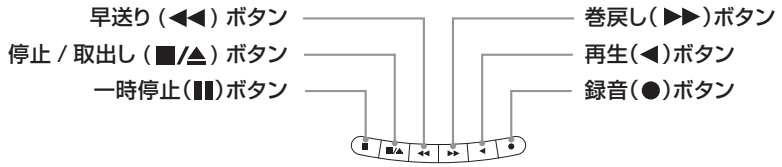
発熱・液もれ・破裂などにより、やけど・けがの原因となることがあります。
もし、液に触れたときは、水でよく洗い流し医師に相談してください。
器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

免責事項について
- 地震・雷・風水害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故・お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- この商品の不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

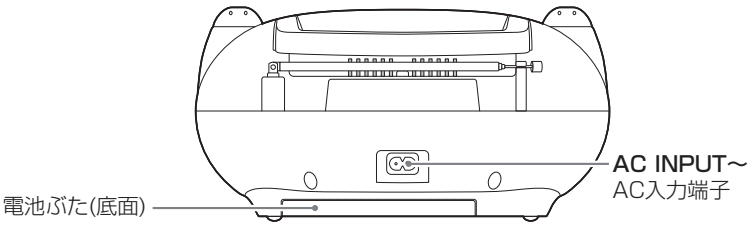
各部の名称

正　面

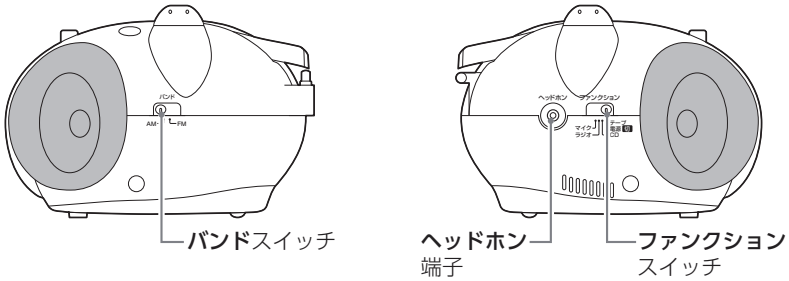




背　面

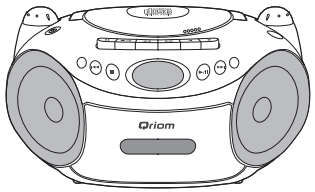


側　面

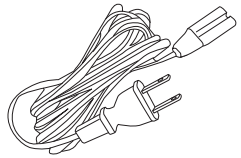


本体付属品リスト

CBX-C993 梱包には、下記のものが同梱されています。



本　体



電源コード

取扱説明書

保証書付

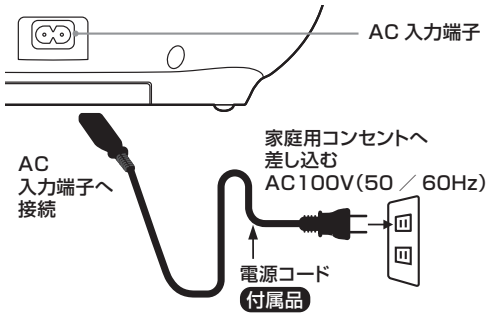
電源について

本体は、AC100V家庭用電源及び、乾電池のいずれかで使用できます。

家庭用電源を使うとき

●付属の電源コードを、本機背面にあるAC入力端子へ接続した後、家庭用コンセントへ差し込んでください。

●電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。



お願い

●電源コードを抜き差しするときは、ファンクションスイッチを「電源 切」の位置に合わせてください。

●本機を使用しないときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

乾電池（別売り）で使うときは

本機底面の乾電池フタを開けてください。電池ボックスふたにある【▾】マークを押しながら開いてください。

次に電池ボックス内の表示通りに、単2形乾電池（別売）を6本+−の極性を正しく入れます。

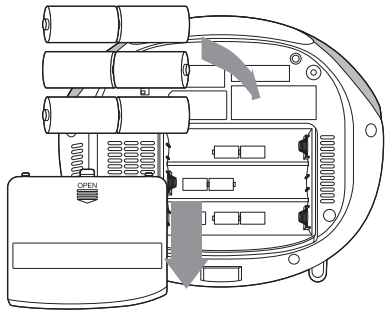
電池を入れたら、乾電池フタを元通りにパチンと音がするまで閉めてください。

使用される乾電池はアルカリ乾電池を推奨します。

お願い

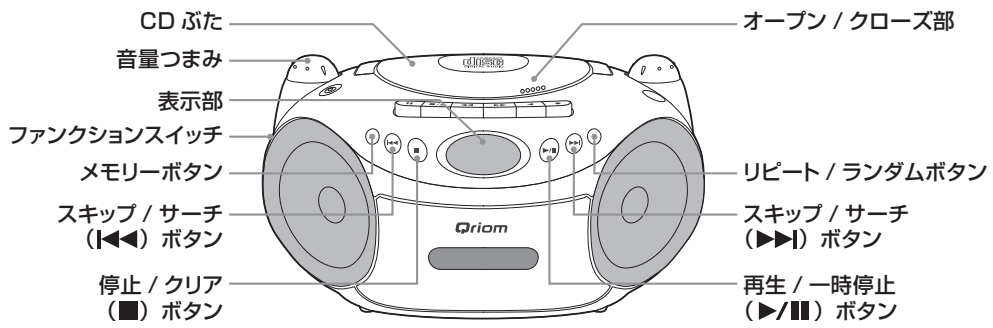
●電池残量が少なくなるとCDプレイヤーが動かなくなりますので、CD再生を聴くときは、付属の電源コードでの使用をお薦めします。

●乾電池を入れたまま長時間放置すると、乾電池の消耗が進みます。また、液もれの原因になることがあります。長時間ご使用にならないときは、乾電池を取り出しておいてください。

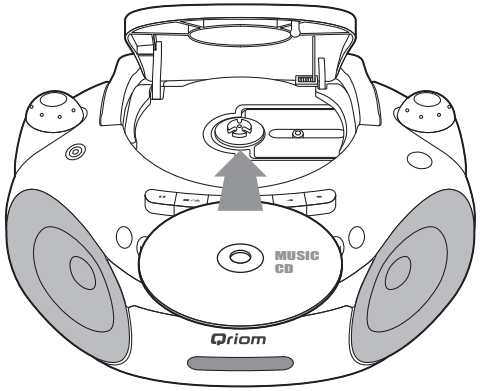


※充電池をご使用の際は微妙なサイズ違いにご注意ください。
接触不良を起こす場合があります。

CDを聴く



1.ファンクションスイッチをCD側にして電源を入れます。
2.CDぶたのオープン/クローズ部を押すとCDぶたが開きます。表示部に『ー ー』が点滅、その後『 』が表示されます。初めて使用するときは、輸送時等のレンズ保護のため装着されているレンズ用保護シートを必ず外してください。
3.レーベル面を上にしてディスクをカチャッと音がするまでしっかりチャッキング部に装着し、CDぶたを閉めます。
4.CDぶたを閉めると自動的にディスクが回り、収録されている曲数が、表示部に表示されます。曲目を選択する場合はスキップ/サーチ（|◀◀ または ▶▶|）ボタンで曲目を選択します。選択しなければ1曲目からの再生になります。
5.再生/一時停止（▶/❚❚）ボタンを押すと再生が開始します。音量つまみで音量を調節してください。
6.再生を終えるときは停止/クリア（■）ボタンを押します。
7.電源を切るときはファンクションスイッチをテープ 電源 切 にします。



※CD再生中にCDぶたを直接開けないでくださいCDの回転がすぐには止まらずCDやレンズを傷つけてしまうことがあります。

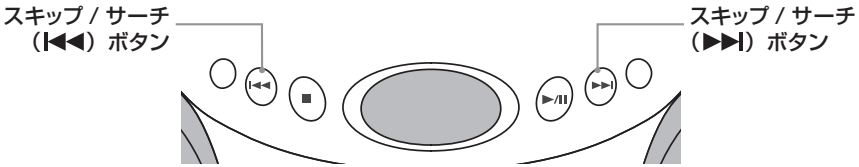
スキップ再生／サーチ再生

■ スキップ再生

●再生中にスキップ/サーチ（▶▶|）ボタンを1回押すごとに、先の曲に進み、曲の頭から再生が始まります。逆にスキップ/サーチ（|◀◀）ボタンを押せばその曲の頭から、2度押すと前の曲の頭から再生が始まります（押すごとに前の曲の頭に戻ります）。

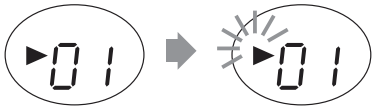
■ サーチ再生

●再生中にスキップ/サーチ（▶▶|）ボタンを押し続ければ早送りに、逆にスキップ/サーチ（|◀◀）ボタンを押し続ければ巻き戻しになります。小さく再生音が聞こえますので、この音を聴きながら希望のところで指を離します。



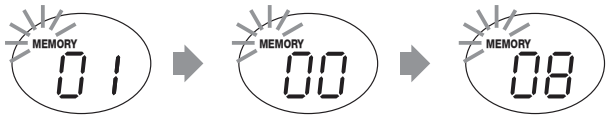
一時停止

●CD再生中に、再生/一時停止（▶/❚❚）ボタンを押すと、一時再生を停止します。（表示部の『▶』が点滅）。もう一度押すと停止したところから再生を開始します。

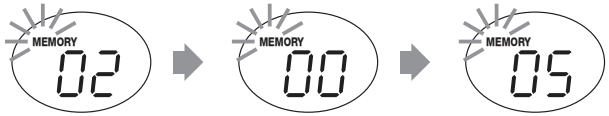


最大20曲プログラム再生

1.メモリーボタンを押します。『MEMORY』表示が点滅し、再生順を示す『01』が点灯した後、『00』表示が点滅します。スキップ/サーチ（|◀◀ または ▶▶|）ボタンで曲番号を選択します。（下の例はCDの8曲目を選択）
目的の曲番号を表示させたらメモリーボタンを押すとプログラムされます。



2.1.の手順で目的の曲がプログラムされた時、次の再生順を示す『02』が点灯した後、『00』表示が点滅します。
再び、スキップ/サーチ（|◀◀ または ▶▶|）ボタンで曲番号を選択します。（下の例はCDの5曲目を選択）
目的の曲番号を表示させたらメモリーボタンを押すとプログラムされます。



3.上記の作業を繰り返して、お好みのプログラムをお作りください。最大20曲までのプログラムが可能です。
4.再生/一時停止（▶/❚❚）ボタンを押せば、プログラム再生します。（『MEMORY』が点灯）
5.再生を止めるときは、停止ボタンを押します。
セットされたCDに入っている全曲数が表示されます。『MEMORY』表示が消えますが、設定したプログラムは記録されています。
6.再度プログラム再生を再開するときは、停止時にメモリーボタンを押します。『MEMORY』表示が点滅し、再生順1番目の表示『01』が点灯した後、1番目の曲番が点滅します。
7.『MEMORY』表示が点滅中に、再生/一時停止（▶/❚❚）ボタンを押します。『MEMORY』表示が点灯し、プログラム再生が始まります。

※20番目までプログラムすると、「ー ー」が点滅表示されます。21番目以上をプログラムすることはできません。
※再生中やCDを入れていない状態ではプログラム予約できません。
※プログラムの記憶を解除するには、メモリーボタン を押し『MEMORY』表示が点滅中に 停止/クリア（■）ボタン を押します。

CDを聴く

リピート再生

■ 1曲リピート再生

1.再生中もしくは、再生前にリピート/ランダムボタンを1度押します（『REPEAT』表示が点灯）。

2.再生中の場合は、そのままその曲の繰り返し再生に入ります。再生前の場合はスキップ/サーチ（▶▶I）ボタンで曲を選択し、再生/一時停止（▶/II）ボタンを押せば選択した曲を繰り返し再生します。

3.再生を止めるときは、停止/クリア（■）ボタンを押します。

■ 全曲リピート再生

●再生中、もしくは再生前にリピート/ランダムボタンを2度押します（『REPEAT　ALL』表示が点灯）。あとは1曲リピートと同じ操作で全曲を繰り返し再生します。

●プログラムした曲をリピート再生するには、プログラムした後、リピート/ランダムボタンを2度押します（『REPEAT ALL』表示が点灯）。

■ ランダム再生

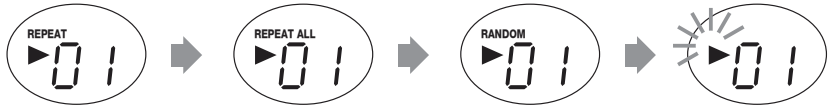
●再生中、もしくは再生前にリピート/ランダムボタンを3度押します（『RANDOM』表示が点灯）。

※プログラムした曲をランダムに再生することはできません。

■ リピートまたはランダム再生を解除するには

●再生開始前の停止中に停止/クリア（■）ボタンを押すと解除します。

●再生中にリピートまたはランダムを解除するには、リピート/ランダムボタンを押して、『REPEAT』・『REPEAT ALL』・『RANDOM』表示を消してください。

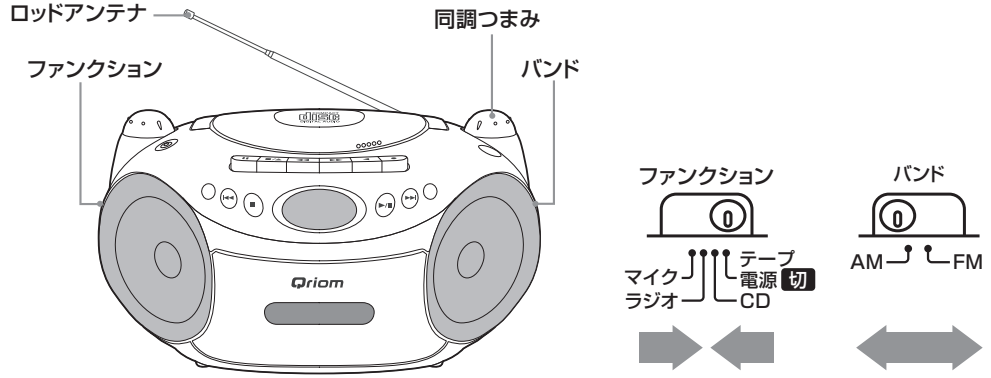


再生できるCDについて	CD、CD-R、CD-RWを再生することができます。 ●CDの規格に準拠していないディスクについては再生できないことがあります。また記録方式によっては再生できないことがあります。

※MP3、WMA、WMVファイル形式のディスクやVCD（ビデオCD）は再生できません。

※本機ではCD-R／RWディスクに録音することはできません。

ラジオを聴く



1.ファンクションスイッチをラジオ側にします。電源が入ります。

2.バンドで、AMか、FM、のいずれかを選びます。

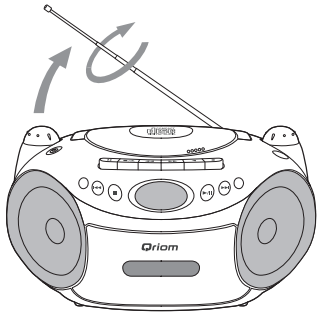
3.同調つまみで放送局を選局し、
音量つまみで音量を調節します。

4.ラジオを切るときは、ファンクションスイッチをテープ 電源 切にします。

受信状態を良くするには

■ FM放送の受信

●FMアンテナを最長に伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節します。

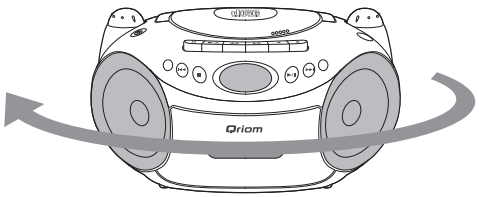


※FMアンテナは収納式です。アンテナ支持部から立ち上げた状態で角度を可変することが出来ます。収納時はアンテナを垂直にして押し込んでください。

※アンテナを伸ばした時は、先端でケガ（特に目など）をしないように注意してください。

■ AM放送の受信

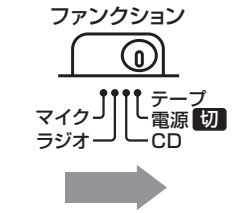
●本機にバーアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合窓際の方が良く受信できます。



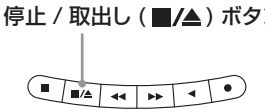
カセットテープを聞く

再生のしかた

1.ファンクションスイッチをテープ電源**切**にする。



2.停止/取出し(■/▲)ボタンを押してカセットホルダーを開けます。



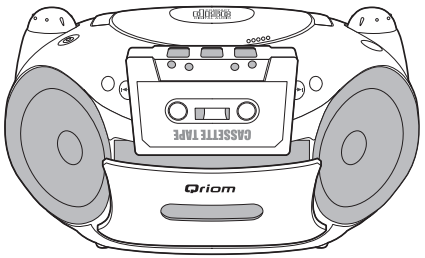
3.再生するカセットテープの再生面を手前にしてカセットホルダーに入れカセットホルダークローズ部を押して閉じます。

4.本体上面の再生(◀)ボタンを押します。

- ●電源が入り再生が始まります。
- ●再生･録音中にテープが片面に巻き取られると、自動的にボタンが復帰して停止します。

5.再生を止めるときは停止/取出し(■/▲)ボタンを押します。

6.カセットテープを取り出すときは、もう一度、停止/取出し(■/▲)ボタンを押し、カセットホルダーを開けてカセットテープを取り出し、カセットホルダーを閉じます。



■ 再生の一時停止

- ●再生中に一時停止(❚❚)ボタンを押します。
- ●もう一度押すと一時停止が解除され、再生に戻ります。

■ 早送り、巻き戻し

- ●早送り(◀◀)ボタンまたは巻戻し(▶▶)ボタンを押します。

お願い

- ●再生中に早送りまたは巻戻しをするときは、一度停止させてください。直接、早送りや巻戻しをするとテープの巻き付きやテープ切れの原因になります。
- ●早送りまたは巻戻しを行い、テープが片面に巻き取られてもボタンは戻りません。停止ボタンを押して戻してください。

カセットテープについて

90分以上の長時間テープは大変薄く、伸びやすいため、機械に巻き込むおそれがありますので、使用しないでください。

- ●ノーマルテープ(TYPE1)をご使用ください。
- ●ハイポジションテープ(TYPE2)やメタルテープ(TYPE4)は再生できますがその特性を活かすことはできません。正しくは録音･消去することもできません。
- ●エンドレステープは使用できません。

テープがたるんでいるときは、鉛筆などでたるみをとってから使ってください。
テープ巻きつきなどの原因になります。

次のような場所には保管しないでください。

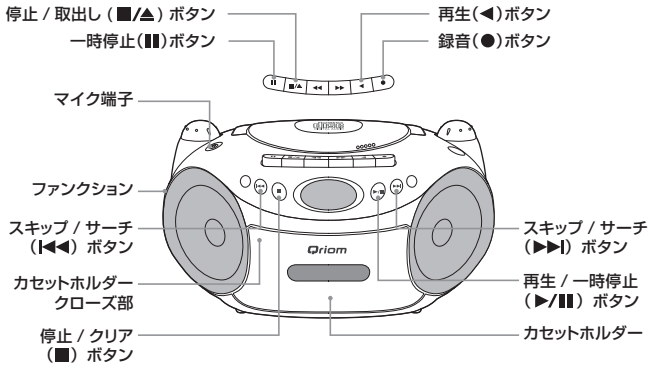
- ●ほこりの多いところ。
- ●磁気の発生するところ。
- ●高温や湿気の多いところ。

大切な録音を消さないために

- ●カセットテープの上部の誤録音防止ツメをドライバーなどで折れば誤消去の防止になります。
- ●誤ってツメを折ったり、再び録音したいときは、セロハンテープなどで穴をふさいでください。

CD･ラジオ･マイクから録音する

- ●停止/取出し(■/▲)ボタンを押してカセットホルダーを開けます。
- ●録音用にカセットテープを用意し、録音する面を手前に、テープが見える方を上側にして入れます。
- ●テープの途中から録音するときは、録音を開始する位置までテープを巻き取っておいてください。



■ CDを録音する(CDシンクロ録音)

1.ファンクションを『CD』に切り換えCDを入れます。
2.録音(●)ボタンを押します。再生ボタンも同時にさがり、CDの再生と同時に録音が始まります。
3.録音を止めるには停止/取出し(■/▲)ボタンを押します。

- ●希望の曲から録音するときは、スキップ/サーチボタンを押して希望の曲番を選んでおきます。
- ●プログラムを録音するときはメモリーボタンを押してプログラム設定を行い『MEMORY』表示を点滅させておきます。
- ●CDの再生中に録音ボタンを押すと、再生中の曲が最初へ戻り録音が開始されます。
- ●CDの一時停止中に録音(●)ボタンを押すと、録音とCDの再生が始まるので、曲の途中から録音を開始することができます。
- ●停止/取出し(■/▲)ボタンを押すと、カセットデッキは停止状態になりますが、CDの再生中の曲も一時停止状態になります。
- ●テープが終端にくると、カセットデッキは停止状態になり、CDの再生も一時停止状態になります。
- ●CD再生のみを停止するには CDの停止/クリア(■)ボタンを押してください。 (カセットデッキは録音状態のままです。)
- ●テープを一時停止すると、テープは一時停止しますが、録音中のCDは停止せずCDシンクロ録音になりません。また、CDを一時停止すると、CDは一時停止しますが、録音中のテープは停止せずCDシンクロ録音になりません。

■ ラジオを録音する

1.ファンクションを『ラジオ』に切り換え放送を受信します。
2.録音(●)ボタンを押します。
3.録音を止めるには停止/取出し(■/▲)ボタンを押します。

■ マイクを使ってマイク端子から録音する

1.ファンクションを『マイク』に切り換え市販のマイクをマイク端子に差し込みます。
2.録音(●)ボタンを押します。
3.録音を止めるには停止/取出し(■/▲)ボタンを押します。

■ CD･マイク両方を同時に録音する

1.ファンクションを『CD』に切り換えCDを入れます。市販のマイクをマイク端子に差し込みます。
2.録音(●)ボタン を押します。再生ボタンも同時にさがり、CDの再生と同時に録音が始まります。
3.録音を止めるには停止/取出し(■/▲)ボタンを押します。

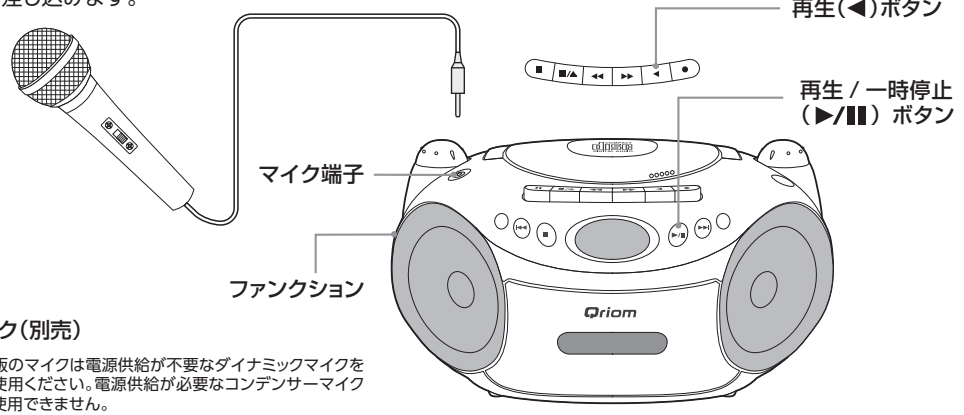
※CDシンクロ録音をするときは、音楽CDの再生時間よりも長めのカセットテープを用意しておきます。

※本機にはALC(Automatic Level Control:自動録音レベル調整)回路内蔵のため、自動的に適正なレベルで録音されます。音量つまみを調整しても録音には影響しません。

マイクを使う

さまざまな用途でマイクを使う

●ミニプラグ付の市販マイクを上面のマイク端子に差し込みます。



※市販のマイクは電源供給が不要なダイナミックマイクをご使用ください。電源供給が必要なコンデンサーマイクは使用できません。

■ 拡声器としてマイクを使う

1.ファンクションスイッチを『マイク』に切り換えます。
2.マイクに向かって声を入れると音声がスピーカーから流れます。

■ CDとマイクを同時に使う

1.ファンクションスイッチを『CD』にし、CDを入れます。
2.再生/一時停止(▶/❚❚)ボタンを押します。
3.CDの再生とマイクからの音声がともにスピーカーから流れます。

●ファンクションスイッチが『CD』の場合、CD再生中のみマイクが使えます。(一時停止中は使えません。)

■ カセットテープとマイクを同時に使う

1.ファンクションスイッチをテープ 電源 切 にしてカセットテープを入れる。
2.再生(◀)ボタンを押します。
3.テープの音声とマイクからの音声がともにスピーカーから流れます。

●ファンクションがテープ 電源 切 の場合には、テープ再生中のみマイクが使えます。(停止中は使えません。)

※ファンクションを『ラジオ』に切り換えた場合もマイクを使用することができます。

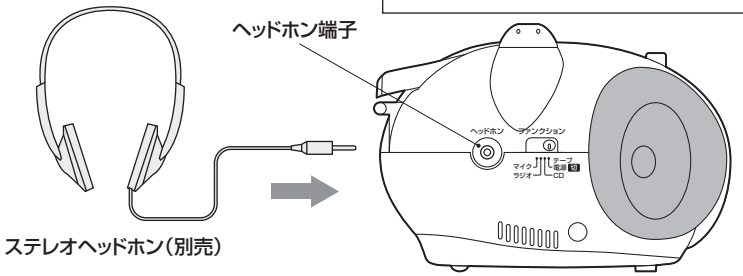
※マイクを使った音声の再生・録音はともにモノラルになります。

ヘッドホンで聴くときは

●別売のヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)を、本機側面にあるヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐとスピーカーからの音は聴こえなくなります。

お願い

●ヘッドホンを使用するときは、本機の音量を下げた状態でヘッドホン端子に接続してください。
また、使用時の音量の上げすぎにも注意してください。聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



お手入れ方法

本体のお手入れのしかた

柔らかい布で汚れを軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

お願い

●ベンジン、シンナーなどは表面の仕上げを痛めますので、絶対に使用しないでください。

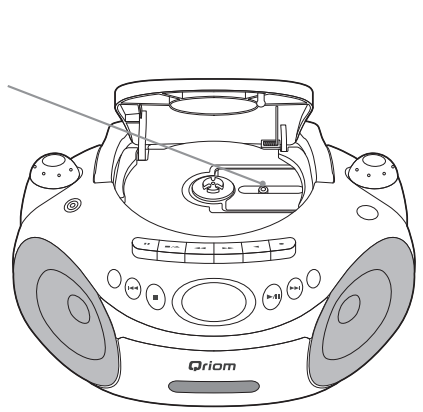
ピックアップレンズ部のクリーニングのしかた

レンズの汚れは音とびなど、再生が出来なくなる原因となります。

CDドアを開け、レンズについたホコリやゴミを市販のブロアー(エアスプレー)でクリーニングしてください。

お願い

●布や綿棒などをレンズに当てないでください。故障の原因となります。



仕　様

電源	AC100V（50/60Hz） DC 9V　単 2 形乾電池 ×6 本【別売】
消費電力	10W（待機消費電力 1.2W）
実用最大出力	1W＋1W（JEITA/DC）
音声出力端子	ヘッドホンφ3.5mm ステレオミニジャック ×1 32Ω
再生可能ディスク	音楽 CD・CD-R・CD-RW
受信周波数	FM76 ～ 90MHz ／ AM522 ～ 1,629kHz
本体寸法	282(幅)×146(高さ)×234(奥行)mm
質量	約 1.8kg（電池含まず）
付属品	電源コード (約 1.8m)、取扱説明書（保証書付）

●仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合があります。
●この商品は、日本国内用に設計･販売しております。電源電圧や周波数の異なる国では使用できません。海外での修理や部品販売などのアフターサービスも対象外となります。

故障かな?と思ったら

症　状	原　因	処　置
電源が入らない	●電源コードプラグが充分に挿入されていない。 ●電池が消耗している。	●電源コードプラグを奥まで挿し込む。 ●新しい乾電池と全て交換する。
ディスクを読み込まない	●ディスクが入っていない。 ●ディスクが裏返しに装着されている。 ●ディスクの読み込みに十数秒かかる。 ●ディスクが汚れていたり、傷がついてる。	●ディスクを入れる。 ●ディスクをレーベルの印刷がある側を上にしてしっかり装着する。 ●ディスクの汚れを取る、又は、ディスクを交換する。
CDの音がとぶ	●ディスクに大きな傷やそりがある。 ●振動する場所に設置している。	●ディスクをとりかえる。 ●振動のない場所に設置する。
雑音が多く聞きづらい	●電源雑音の影響を受けている。 ●モーター、蛍光灯などの電気器具、テレビによる雑音の影響を受けている。	●電源プラグの刃向きを差し換える。 ●本機を雑音源から離す。 ●テレビを離す。 ●アンテナを調節する。
ラジオは鳴るのにCDが動かない	●乾電池を使用している。	●乾電池が消耗している可能性があるので、新しいものと交換する。

保証とアフターサービス

保証書

●この製品は保証書がついております。お買い上げの際に、販売店より必ず保証書欄の『お買い上げ年月日』と『販売店印』の記入をお受けください。
●保証期間はお買い上げの日から1年間です。詳細は保証書をご覧ください。

補修用性能部品の保有期間

●本機の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後6年間です。
●補修用性能部品とは、その商品の性能を維持するために必要な部品です。
●消耗部品のご注文などについては販売店にご相談ください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご依頼ください。保証書の記載内容により修理致します。
保証期間中であっても有料となる場合がございます。

保証期間が過ぎているときは

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。
修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

アフターサービスについて

アフターサービスについてご不明な場合は、本書に記載のお買い上げの販売店かキュリオムサポートセンターにお問合わせください。
※ナビダイヤルは一部の電話ではご利用になれない場合がございます。

キュリオムサポートセンター
ナビダイヤル
0570-00-9106

受付時間	メールでのお問い合わせ
月～金　午前10時～午後5時30分 （土・日・祝祭日・年末年始を除く）	E - m a i l : support@qriom.com ホームページ: http://www.qriom.com

個人情報のお取り扱いについて

株式会社 山善及びその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また個人情報を適切に管理し、修理業務などを受託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。

愛情点検	長年ご使用の機器の点検をぜひ		
	このような症状はありませんか	●ACアダプターのコードが傷んでいる ●煙が出る ●変な臭いがする ●その他の異常や故障がある	故障や事故防止のため、使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に点検･修理をご相談ください。

※本機を廃棄される場合は、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

MEMO

Qriom

MEMO

Qriom